

施策評価表

京 都 府 南 丹 市
作成日：平成 22 年 7 月 13 日

平成22年度(平成21年度実施)

評価施策名	4 ひとを温かく迎える	施策CD	24	施策主管部	農林商工部	部長名	神田 衛
政策名	第2章 自然・文化・人を活かした郷を創る			施策関係部	企画管理部・八木支所・日吉支所・美山支所		

【施策の概要】

1 南丹市が考える理想(目的)

目標項目(成果)	単位	H20	H21		H22	H23	H24
		実績値	目標値	実績値	目標値	目標値	目標値
観光入込客	千人	1,516	1,700	1,790	1,800	1,900	2,000
観光消費額	百万円	2,023	2,100	2,079	2,150	2,180	2,200
外国人の入込客(宿泊)数	人	439	450	533	460	480	500

○ 観光による集客数を増やし、観光消費額を増やす。
○ 人とひととの交流を推進する。

1 南丹市の現状(課題)

○ 芦生原生林、美山のかやぶきの里、日吉ダム、景勝り溪、桜並木で有名な大堰川河畔など多くの観光資源がある。
○ 観光入込客は、横ばいまたは減少傾向となっている。
○ 各種交流イベントは、多くが関係団体などで構成される実行委員会が主体で、市が開催を支援しているが、入込客の増加、また、市民の一体感の醸成に向けた市民交流の効果は薄い。

(現状)	H15	H16	H17	H18	H19
・観光入込客(人)	1,660,215	1,529,841	1,590,993	1,545,853	1,516,296
・観光消費額(千円)	2,111,489	1,940,247	1,961,888	1,933,501	2,023,601

2 対策をしなければどうなるのか

○ 観光入込客及び消費額が減少することにより、市内産物の販売や関連産業の雇用など、地域経済への悪影響が推測される。

3 それは何故おきたのか

○ 大都市圏内でありながら、面積が広大で観光入込を誘う資源活用ができていない。
○ 観光コースに回遊性が乏しく、滞在時間が少ないため、地域経済効果に繋がっていない。(一人当たり観光消費額が少ない。(平成18年度1,250円/人)
○ 交流イベントは、類似するイベントの調整や四季を通じた計画的な実施になっていない。
○ 個人客の利用が多い公共交通機関を使った移動手段(JR・バス)が不便である。
○ 観光バスでの来訪は短時間滞在になりやすい。
○ レクリエーションの多様化など、若年層の釣り離れが進み、入漁者が減少している。

4 それらを解決するために何をするのか

①観光地としてのレベルアップと知名度の向上を図る。
・観光ネットワーク体制の確立、受け入れ体制の整備
・観光施設職員等の営業力やホスピタリティの向上
・観光施設周辺の景観保全や美化の推進、観光施設のバリアフリー化
・パンフレットやホームページによる観光情報の発信など南丹市のPR
・温泉施設と他の観光資源の融合、健康志向を取り入れた温泉の活用
②観光資源の開発や整備を促進する。
・滞在時間延長のためのしかけづくり、多彩な地域資源の活用とモデルコースの設定
・古道や遊歩道の環境整備、観光案内版、道標などの充実
・南丹ブランドの特産品開発、特産品の販路開拓
・体験農園や市民農園などの整備、河川環境の保全を行う漁業協同組合への支援
③都市や外国と交流する人を増やす。
・各種イベントの開催、グリーンツーリズムの推進
・国際交流の実施、国際交流組織への支援

【施策コスト】(評価対象事業の合計)

	単位	H20	H21	H22	H23	H24	
決算額(計画額)	千円	119,785	132,868	133,347	322,316	122,316	
財 源 内 訳	使用料・手数料	千円	44,452	50,904	51,958	64,820	4,820
	国・府支出金	千円	9,015	17,253	5,292	5,847	5,847
	地方債	千円	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	66,318	64,711	76,097	251,649	111,649
職員従事人数	人・年	6.71	4.15				
人件費	千円	45,319	26,525				
事業費総額	千円	165,104	159,393				

【施策目標の達成に貢献度の高い事業】

全 17 事業 単位:千円

事業名(細事業名)	決算額	うち一般財源	うち人件費
観光イベント振興事業(観光イベント振興事業)	9,555	8,504	1,881
観光宣伝事業(観光宣伝事業)	7,237	7,237	4,904
内水面漁業振興対策事業(内水面漁業振興対策事業)	15,337	10,045	752

【前年度の評価】(要約)

【総合評価】
①目標の達成状況
原油高、厳しい経済情勢を反映して、入り込み客数は 低迷している。周遊型になっていない。イベントにおいても旧町の範囲を超えての、市一本のレベルには達していない。
②目標値や施策の考え方の見直し
広範な市域の中、多くの観光資源があるが点と点の状態であり、利用しやすい方策を考える。入り込み客が低迷する中、消費単価を上げる。類似するイベントの見直しが必要である。

【改善の方向性】
①今後の方向性
各種団体との観光ネットワークの体制づくりが必要である。季節ごとのメリハリの利いたイベント開催が必要である。
②各事業の対応
一般旅行会社との連携も含め、交通アクセスの改善策を検討する。観光施設周辺の景観保全を図る。滞在時間延長のためのイベント等の仕掛けづくり。土産物の開発。

【今年度の評価】

【総合評価】
①目標の達成状況
観光地のレベルと知名度アップのため、観光キャンペーンへの参加を積極的に行った。交通関係者との連携により定期的な観光快速バスの運行が可能になった。
②目標値や施策の考え方の見直し
少子高齢化が進む中、観光地間の競争はさらに進む。リピーターをどう増やすかが重要である。消費単価を上げるための各種のお土産の開発も課題である。

【改善の方向性】
①今後の方向性
観光分野は人口減少・高齢化が進む現状において、地域における消費の増加や新たな雇用の創出など幅広い経済効果や活力に満ちた地域社会の実現をもたらす効果が期待される。南丹市においては市域が広大であり観光拠点施設も分散している。モデルコースの設定によってそれぞれの施設を活用し、滞在時間延長のしかけづくりを行う。
②各事業の対応
観光協会事業の支援
観光協議会による「京都丹波春の観光物産キャンペーン」等の実施
観光拠点施設の整備改修事業に取り組む
市民農園の開設
ハイキングコースの整備
各種イベントへの支援
街道整備事業(歩道修理他)
内水面漁業振興対策の実施

【評価を受けて取り組んだこと】

近隣市町ともに積極的な観光宣伝、また市内商工業者との連携による販売促進を通じてPRを行った。
国の臨時交付金等活用し、市内観光施設の改修を積極的に実施した。
国際交流協会の設立
美山ネイチャー号導入の取り組み
口丹波新歴史街道会議の開催
修学旅行誘致による都市農村交流の実施